

地域家庭医療月報



豊田えいせい病院グループ

「創意、誠意、熱意」をサービス理念として掲げ、高齢者の医療・介護サービスを提供しています。

豊田えいせい病院では、急性期医療を終えてリハビリテーションや継続的な医療を必要とされる患者さまを中心に、呼吸器内科をはじめとする包括的な医療サービスを提供しています。患者さまの状態や容態の変化に合わせた医療・ケアに、グループの総力を挙げて取り組んでいます。

診察時間：午前 9:00～12:00

午後 14:00～17:00

外来診察

内科 呼吸器内科 消化器内科 皮膚科
外科 小児外科 循環器内科 整形外科
リハビリテーション科 脳神経外科

豊田えいせい病院グループ へのアクセス

〒438-0838 磐田市小立野 102

TEL 053-834-6110

FAX 053-837-7529

<http://www.keiseikai.org/>



豊田えいせい病院グループ 理事長 姫野一成先生（医学博士）
地域と連携を深め、
回復期、慢性期、亜急性期の包括医療を実践する

◆院長の来歴◆

Q・先生のこれまでのキャリアを教えてください。

出身は磐田市旧豊田町地区。藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）出身です。開業医として地域医療に奮闘していた父の背中を見て育ち、在学中から、地域医療に関わることを決まっていた。ジェネラリストになることを決めていました。

卒業後、大学病院の呼吸器内科に入局し、ICUにて重症患者さんの呼吸管理や病棟での入院患者さんの管理、肺がんの化学療法など様々な業務を担当しました。特に化学療法については、投薬量の計算からルート確保まで全て行いました。外来での化学療法も試行錯誤の中、始めました。ベッドサイドの手技は誰にも負けないくらい身に付けました。

3月号 アウトライン

院長の来歴 P.1

磐田地域の医療課題と実践する医療 P.2-3

父から影響を受けた経営理念 P.4

最後に P.5

Q・病院を継いだ当初の状況はいかがでしたか？

継いだ当初は苦労しました。

その時の自分は、一般的に見て大変若く、医師も自分1人でした。往診も、最初は看護師さんと2人で、退院した患者さんから始めました。

目の前の患者さんを大切に、誠心誠意尽すこと、要望があれば応えていく、というように無我夢中で突っ走ってきました。

その様な努力が実り、頼ってくれる患者さんが少しずつ増えていきました。

院内の施設について

回復期リハビリテーション病棟



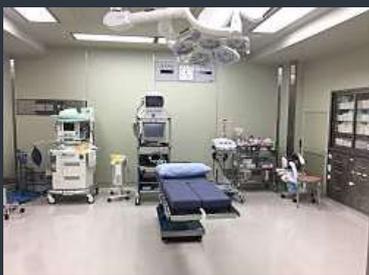
療養病棟 / 地域包括ケア病床



内視鏡検査室



手術室



MRI (震え外来)



◆磐田地域の医療課題と実践する医療◆

Q・磐田地域の課題を教えてください。

療養病床や地域包括ケア病床が不足している点です。

磐田市は磐田市立総合病院と開業医の先生のクリニックが主となります。磐田市のそのような特色から、家や開業医さんでは見切れない、けれども、急性期病院では入院させてもらえない、といった患者さんが行き場を失っていました。

当院はその間を埋める役割を担いケアミックスを展開しています。

長期療養やリハビリテーションを必要とする方、IVH、酸素使用の方でも、年齢にかかわらず、入院を受け入れています。急性期や高度救急医療は地域医療連携の観点でみていません。

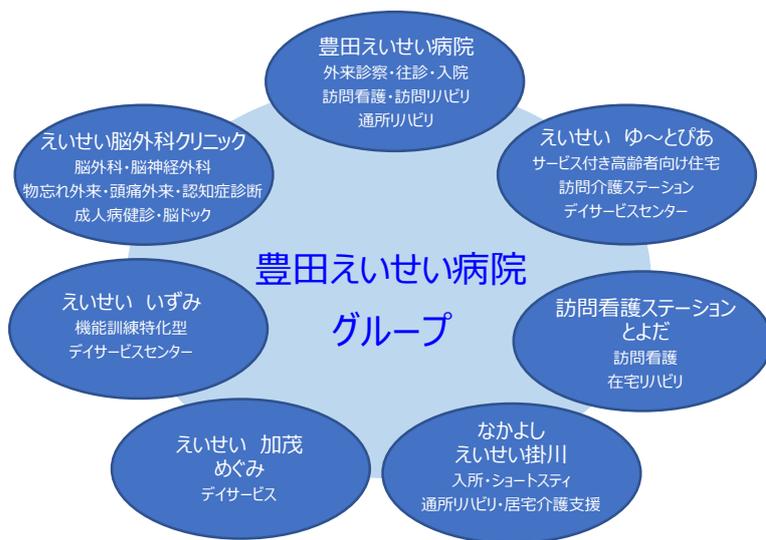
Q・病院の施設について教えてください。

現在10の診療科を標榜し、地域や大学病院からも先生に来てもらっています。設備としては、手術室を完備し、大腿骨骨折の手術などは行える様になっています。

また、令和元年、浜松医大と共同で「ふるえ外来」を開設し、本態性振戦に対するFUS（修飾超音波）治療ができるようになりました。施設に完備しているMRIを使用し、脳の一部を熱凝固させることで治療していきます。

その他専門外来として、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、ボツリヌス療法などを展開しています。

療養病床や地域包括ケア病床が不足している
磐田市特有の課題を解決する



Q・回復期医療や、貴院の入院体制について教えてください。

リハビリ病棟も完備しており、言語聴覚室も2部屋設置しています。患者さんの日常生活に戻っていくことに大きな価値を置いているためです。リハビリは、合併症を防ぐだけでなく、入院により患者さんご本人のQOLを下げないことも重要です。

病棟は、一般床は設置しておらず、階ごとに地域包括病床、医療療養病床、回復期リハビリ病床などに分類されています。

個室は他の病院に比べると少なくなっています。個室料というお金を患者さんから取りたくないこと、多くの人を受け入れたいというのが、その理由です。

また豊田えいせい病院グループでは、病院だけでなく、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、デイサービスセンター、サービス付き高齢者向け住宅等も運営しています。*

グループ施設について

なかよし



えいせい掛川



訪問看護ステーションとよだ



サービス付き高齢者向け住宅



機能訓練特化型
デイサービスセンター いずみ



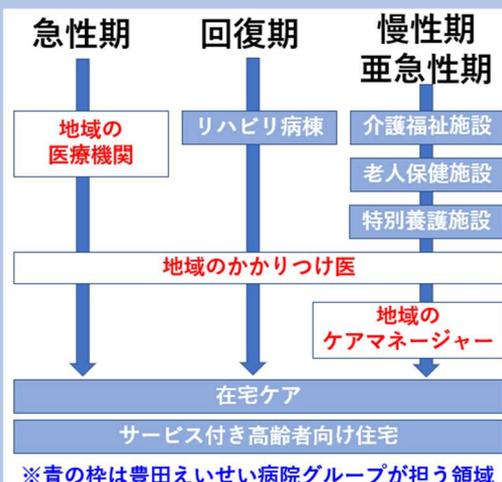
※豊田えいせい病院グループの地域医療連携

豊田えいせい病院グループは、地域の急性期病院、かかりつけ医やケアマネージャー等との地域医療連携で、地域完結型医療を実現する。

豊田えいせい病院グループは特に回復期機能や在宅患者の急性増悪時の入院の受け入れなどに力を入れている。

回復期、慢性期、亜急性期の機能を持つことで、患者さんを継続的に支援し、復帰を支援する。

復帰後も在宅ケアやサービス付き高齢者向け住宅といった医療・サービスを提供し、継続的な療養管理・指導も行う。



※※在宅療養支援病院

「24 時間の往診、訪問看護が可能」であり、「緊急時には在宅で療養を行なっている患者さんが直ちに入院が可能」など、必要に応じた医療・看護が提供できる病院。

豊田えいせい病院は「在宅療養支援病院」として認定を受けている。

患者さんが住み慣れた地域で安心して療養生活を送ることができるよう、医療・看護を提供している。



「紹介された患者さんは元の先生に必ず返す」

◆父から影響を受けた経営理念◆

Q・地域医療連携を進める上で大切にする経営方針はありますか？

必ず患者さんを紹介元の先生に返すことです。

開業医の先生と同じ様に、私たちにも私たちにしかできないことがあります。きちんと棲み分けを意識し、地域医療を前へ進めていこうと努力しています。

これには今でも大切にしている原体験があります。父が開業医として、最前線で地域医療に奮闘している様子を見て育ちました。父親は 19 床を 1 人で 365 日診ていました。休みは当然ありません。最前線で働く父親は疲弊しており、他の医師も同様でした。開業医の先生が魂を込めて見ている患者さんを奪うことはできません。

患者さんとの長く深い信頼関係があり、地域住民に頼られている姿を見て、自分も地域医療連携*の観点から地域医療に貢献すると同時に、最前線で頑張る開業医の先生のサポートができれば、と考えるようになりました。

患者さんが急性増悪した時に在宅療養支援病院**である当院に入院させ、安定したら信頼する開業医の先生のお返しする。開業医と共に地域で包括医療を提供します。

Q・どの様にして多くの患者さんとの信頼関係を築いたのですか？

法人外のグループホームや特別養護老人ホームなどへ往診を行うことです。

法人内の施設に加え、外部の施設で往診することで、患者さんや施設との信頼関係を構築していきました。往診により、患者さんとの関係が構築でき、いざ入院となったら、当院には知っている医師がおり、初日から患者さんに安心できる環境を提供できます。

ただ、病院に患者さんが来るのを待っているのではなく、自分が動くことで患者さんとの信頼関係を作り上げ、地域に根差した医療を進めてきました。

地域の開業医をサポートし
開業医と共に
包括医療を提供する

メンバー募集中

本活動(地域家庭医療発信プロジェクト)は、地域医療を実践的に学ぶことを目的として、地域医療を実践する医療従事者にインタビューしています。静岡県の地域医療における現状や課題、先生のキャリア観や人生観に迫り、発信していきます。

本活動に共感していただける方を、
募集しております。

連絡先(●は@に変換ください)
増田竜樹
A16095●hama-med.ac.jp
青木大祐
A16301●hama-med.ac.jp
阿慶田眞之輔
A19002●hama-med.ac.jp

地域家庭医療発信プロジェクト
Twitter アカウント



◆最後に◆

Q・先生が大切にしている理念はありますか？

1つ目に「メンツで医療しない」ことです。

自分がやりたい医療や自分の中にあるフィルター、バイアスをできる限りなくして、患者さんと向き合っていきます。一方通行な医療にならないように、患者さんの訴えから、置かれている状況、生活背景、家族の思いなど鑑みた上で、最善の選択を患者さんと共にしていきます。まずは、優しく受け入れることが患者さんを診る上で重要です。

2つ目に「目の前にいる患者さんに対して精一杯尽くすこと」です。患者さんに対して責任を持つことです。

現在、様々な施設を展開していますが、病院としていたずらに大きくしようと思っていたわけではありません。大きくしすぎると患者さんを自分1人では見切れなくなります。そこは譲らない一線で、見ている患者さんは自己完結できるように心がけています。

また、地域医療を変えたいというようなことも考えていませんでした。飽くまでも、目の前の患者さんを大切にすることです。そこから、全ての地域医療は始まります。



豊田「えいせい」病院

の名前には……

- 「清潔」で衛生的な病院の実現
- 患者さまの「永世(長生き)」を願い支援する
- 衛星の様に地域の医療ネットワークと密接に連携する

といった思いが込められています

記事について

本記事は PDF で閲覧できます。

下記の QR コードもしくは URL よりアクセスしてください。過去の記事も閲覧可能です。

URL

(地域家庭医療学講座 HP の活動実績へ)

<http://familymedicine.sub.jp/>

QRコード



編集後記



左から
姫野先生 阿慶田 青木 増田

2016年入学 増田竜樹

姫野先生の、磐田市の地域医療全体をみる視点から、多くのことを学ぶことができました。大きな枠組みでの地域医療はもちろんですが、先生自身が患者さんとのつながりを一番考えており、小さな単位での医療も両立している様子が印象的でした。
その患者さんを大切にするという姿勢から軸足を離さずに、大きな単位で人を、医療を動かしており、非常に感動しました。
お忙しい中、見学を受け入れてくださりありがとうございました。

2016年入学 青木大祐

地域の課題を、病院グループで解決し、目づグループとして一貫したサービスを提供する事で患者さんに大きなメリットがある事を学ぶことができました。また地域医療には患者さん以外にも、医療関係者との様にお付き合いするべきなのを指導いただき、「地域の中で働く」ことのリアルを学ぶことができました。
大変お忙しい中ご対応頂きました姫野先生・スタッフの皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

2019年入学 阿慶田眞之輔

地域医療における、地域連携の大切さを取材を通して学びました。姫野先生は、他の先生方がカバーしきれず、困っている患者様に目を向け、それを改善するような医療連携を構築し、患者様自身とその家族が安心できる医療を確立しました。ジェネラリストとして地域全体の問題を的確に見つけ出し、患者様によりよい医療を届けたいという思いに感銘を受けました。
お忙しい中、貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。